

## 2023年度 事業報告書

一般社団法人もも

### 【代表挨拶】

一般社団法人ももの活動を応援し、支えてくださっている皆さまに、心より感謝申し上げます。

当法人は、不登校の子どもたちのための居場所づくりからスタートしましたが、現在ではその活動の幅を大きく広げています。発達障害や経済的困窮、ヤングケアラー、精神疾患、ステップファミリーなど、さまざまな背景を持つ子どもたちが集う場となり、教育支援のみならず、食や生活を含む生活支援、個別相談、訪問・同行など、多岐にわたる包括的な子ども若者支援に取り組んでいます。これらの取り組みは、日々子どもたちと向き合う中で感じる必要性から自然に生まれてきたものです。

私たちは、どんな背景を持って育った子どもや若者も、豊かな社会資源にアクセスできる「小規模多機能コミュニティ」の創造を目指しています。少人数で安心して過ごせる家庭的な温かい場、ご飯を食べるついでに気軽に相談ができるソーシャルワークハウス、五教科にとどまらない自由で多様な学びの場、そして若者が地域住民と共に取り組むチャレンジの場など、子ども若者と大人が共に創り出す、そんな温かな情景を目指しています。

日々の活動を通じて、子どもたち一人ひとりの持つ力の素晴らしさに感動させられることが多々あります。そして、地域の皆さまに支えられ、私たちだけでは実現できなかった多くのことを実現してきました。現在、40名を超えるスタッフやボランティアの皆さまが活動にご参加くださっており、心から感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

これからも、すべての子ども若者が安心して力を発揮できる地域のプラットフォームを築くために、スタッフ一同邁進してまいります。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしく申し上げます。

代表理事 伊澤 貴大  
共同創設者 伊澤 絵理子

### 【団体について】

・ビジョン：生まれ育つ環境に左右されず自分の未来に希望が持てる社会を目指しています。

・ミッション：子ども・若者が安心して力を発揮できる地域のプラットフォームをつくることです。

### 【事業の目的】

不登校や不登校経験者など生きづらさを抱える子ども・若者や学校・家庭以外の居場所を必要とする人に対して、地域で居場所支援・学習支援・暮らし支援・相談支援などを行い、社会的自立に寄与します。子ども・若者が経済的なハードルを越えて地域資源を最大限有効活用できることを目指します。

## 【活動実施回数及び延べ利用者数】

利用者延べ人数 2,275 名

## 【アンケート結果】

- ・ももを利用して前向きな変化があったと感じる 100%

### 自己肯定感

- ・自分にはいろいろな素質があると思うか：初期値 21%から 64%に増加
- ・自分のことを好ましく感じるか：初期値 14%から 57%に増加

### 学習意欲

- ・勉強で分からないことは聞くことができているか：初期値 50%から 70%に増加
- ・新しいことを勉強したら復習したいと思うか：初期値 7%から 35%に増加
- ・他人の意見を集中して聞けるか：初期値と同じ 78%

### 他者と関わる意欲

- ・自分の考えを人に聞いてほしいと思うか：初期値 42%から 73%に増加
- ・つらいときや悩んでいるときは人に話したいと思うか：初期値 50%から 71%に増加
- ・迷っているときは人に話したいと思うか：初期値 57%から 93%に増加

### 精神的安定

- ・他人から必要とされていると感じるか：初期値 14%から 36%に増加
- ・自分に仲間付き合いがあると思いますか：初期値 43%から 79%に増加
- ・自分を肯定する機会があると感じるか：初期値 21%から 57%に増加

### 興味・関心

- ・楽しかったり、やってみてよかったと思えたりする機会はあるか：初期値 50%から 93%に増加。
- ・新しいことに挑戦することは好きか：初期値 21%から 57%に増加
- ・新しいアイデアをあれこれ考えることがあるか：初期値 36%から 64%に増加

### 将来のこと

- ・将来のために考えて今から準備していることがあるか：初期値 14%から 36%に増加
- ・進級や進学、就労など将来的なことを考える機会は増えたか：初期値 36%から 79%に増加
- ・自立に向けて活用できる場や支援の選択肢が増えたと思うか：初期値 21%から 64%に増加

(記述アンケートより抜粋)

(こども)

ももは、みんな優しくて家族みたいで大切な存在です。話しかけると、みんな優しく笑顔で答えてくれて、血の繋がってない家族だなんて思ってます！

あの時に、ももの存在がなかったら私本当に死んでたかもしれない。きっと死んでたと思

う。本当に私を救ってくれて、ありがとうございます！

(保護者)

色々なところに相談に行きましたが、相談内容に制限や縛りを感じる事が多く（その相談はここでしてください、や担当が違うなど）、悩みに応じて相談先を変える必要があることにすごく負担を感じていました。

今の状況や経緯をそれぞれの相談先に一から話すことや、ここでは相談に乗ってもらえないのかという絶望感を感じることも度々あり、相談することに対して諦めを感じたこともあります。それに比べて、ももさんは縛りなどなく話を聞いていただけだと思います。

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の数	受益対象者の範囲と人数
居場所づくり支援事業	学校に行きにくい、またはその傾向のある10代から20代前半の子ども若者が集うコミュニケーションの場。	毎週金曜日 14時～16時 毎週月曜日 16時半～18時半 年間開催回数 90回	まなびやもも	4名	子ども・若者 321名
	学校に行きにくい、またはその傾向のある10代から20代前半の子ども若者が夕方以降集う居場所。	毎週木曜日 17時～19時半 年間開催回数 47回	まなびやもも もものバー	2～3名	171名
教育支援事業	学習支援教室	毎週火曜日 17時～19時15分 年間開催 53回	まなびやもも	3名	256名
	ももカレッジ・文化芸術ゼミ	4回開催		2名	55名
暮らし支援事業	「りこのキッチン」 ※居場所の元利用者で	20回開催	太田南コミュ	30名	子育て世帯などの

	ある若者が、自分の得意なことをいかして、子どもたちに「ごはんあるよ。いつでもおいで。」を合言葉に居場所をつくりたいという思いから立ち上げた子ども食堂。		ニティセンター		こどもと家族 900名
	フードパントリー	りこのキッチンと同時開催、毎週火曜日に開催	太田南コミュニティセンター まなびやもも	1-3名	ひとり親家庭や困窮状態にあるご家庭 220世帯
	支援物資のお届け	毎月1回程度 年間回数12回	訪問	2名	20名
	ショートステイ	必要な時に実施 年間回数6日	まなびやもも	2名	6名
体験活動事業	スポーツ、レクリエーション、美術館、ものづくり体験、おかしづくりなど	10回	まなびやもも、高松市美術館、太田南コミュニティセンター、体験施設	2~3名	80名
相談支援事業	子ども若者やそのご家族との個別面談を対面	必要な時に実施 年間回数約170	まなびやもも	2名	170名

	や電話・LINE 相談などで実施。実態と希望に応じて適切な医療や福祉とつながるための伴走支援。	回	ご自宅 (訪問) 病院・ 市役 所・福 祉事業 所(同 行)		
--	---	---	---	--	--

### 【居場所事業】

・居場所活動として、「安心してその場にいられる」を目標に、利用者が「ここにいたい」と思える雰囲気づくりを続けてきました。その影響か、「今日は〇〇したい。」といった積極的な意見がでてくるようになりました。それぞれが自分のしたいこと、絵を描いたり、本を読んだり、ゲームしたりと、自由に振る舞うことが可能な空気で毎週過ごすことができています。

利用者さんの変化として、今までボードゲームをみんなでしようとなった場面では、本人がどちらかというところもあり、遠慮していたように見受けられていましたが、最近はボードゲームに誘うと参加してくれることが増えてきました。

「ももの大人は手を抜かない」をモットーに手を抜かなくてもいいと判断できる相手には、その姿勢で何事も取り組み、利用者の闘争心を掻き立てるように振舞った。その際には、大人たちをゲームで倒そうと家でそのゲームを練習してくる利用者さんもいました。努力することや楽しみの一部となっていました。

この居場所活動により、日常で抱えるストレスの軽減、他者と関わる機会の増加、社会参画への一助となっています。

・他者との交流、体験活動、自然にふれる、見聞を広げるという目的で、女木島に15名ほどで訪問しました。島で活動される方に話を聞く交流活動ののち、電動自転車をお借りして、山に登る体験活動をした。バスで上るチームと電動自転車で上るチームに分かれて、それぞれの体調に合った選択をした。途中で怪我などのアクシデントがあったが、参加者にとって、記憶に残る体験活動となった。人生初の電動自転車についわくわくしてしまう利用者さんが多かった

・レク活動では、体を普段動かせていない子ども若者に向けて、「体を動かそう」というテーマで活動を行いました。15人ぐらい毎回人が集まり、ドッジボール、卓球大会、ダンス教室などを開催しました。小学校低学年の子が未就学児の子に手加減をして投げる、怪我や泣いたりした際には、やさしく対処している様子でした。小学校高学年や中学生の子が大人に代わって活動を支えてくれました。上下の関係をやさしさや思いやりを持ちなが

ら活動するのに役立つ場となっている様子でした。

・「ももでBBQしたい」という利用者の要望から、ももでごはんを食べる活動もしました。

暑い中でのBBQをしましたが、20名程度の参加者でリフレッシュやストレス緩和につながる活動となりました。

#### 【子ども食堂～りこのキッチン～】

・ももの居場所利用者の「子ども食堂をしたい」という思いから、近くの「太田南コミュニティセンター」をお借りして、始めました。始まった時がコロナ禍ということもあり、弁当形式をとっています。調理室で調理し、横の和室でお渡ししています。利用いただいているシングルマザーの方からは、「普段は子ども中心の食事。りこのキッチンの日だけは、子どもはその弁当にし、自分は好きなものを食べるのが楽しみ」という声も聞かれました。

・発案者であり、りこのキッチンのリーダーだった方が、体調不良で参加できなくなり、りこのキッチンを続けるかどうかの話し合いがもたれました。「発案者が戻ってこられる場所を守りたい」との意見もあり、他のボランティアスタッフが、役割分担をし、継続しています。

・調理は未就学児から大人まで、男女問わずいろんな方が参加してくれています。未就学児には、しめじをちぎるなどその子ができることを、年長者がそばについて行っています。普段あまり外にでない子ども、料理が好きで参加してくれています。検食を毎回忘れずにとってくれるなど、他の人が気づかないことをそっとしてくれる、なくてはならない存在です。

・和室にて。弁当の受け渡しは、主に高校生や大学生のボランティアさんがしてくれています。調理ボランティアさんの友人が寄付してくれる品などのお譲り会もあります。ボランティアさんの活動を知って、りこのキッチンの外にも応援してくれる人がいることに感謝です。

・企業や団体さんからのご協力もいただいています。三菱UFJ銀行の方が調理ボランティアにお越しくださり、子供向けに「お金の講座」を開いてくれました。名刺交換のビジネスマナーも教わり、高松支店長さんの名刺を子どもが自慢げに見せてくれました。食材の寄付もあり、お弁当と一緒に帰っていただいています。

・りこのキッチンは、単なる食支援ではなく、調理・弁当の受け渡し・和室でのいろんな活動の中で、幅広い年代と、いろんな背景を持った人達との関わりがあります。ボランティアさんと利用者さんの関わりはもちろんのこと、ここで出会ったボランティアさん同士が話している姿を見ると、年齢にかかわらず「人同士でしか生み出せない育ちの場」になっていたりと、ひとつの「居場所」になっているのではないかと感じます。

【不登校支援】学校や教育支援センターなど行政の居場所に通所することが難しく孤立傾向が高まっている不登校の子どもたちに向けた居場所づくり支援を実施しました。学校に入学後すぐに不登校になり、学校の先生やクラスメイトとの関係性ができないまま家庭で孤立している不登校児童生徒は、家族以外の他者とのコミュニケーションをとる機会がきわめて少なくなる傾向があります。いくつかの行政や民間の施設を見学・体験してもうまくなじむことができず、孤独感や学習性無力感から意欲や自己肯定感の低下が見られました。家族もこどものケアを保護者だけで担うことに大きな負担を感じています。

#### 【相談支援】

高校生世代の若者からは自傷行為があるが、身近に相談できる人がいないためにネット上での関係性に依存してしまいトラブルに発展するケースがありました。自分の感じている困り感や体調などの整理を行うために言語化のサポートをおこないました。こころとからだのコンディションカードをつかって現在のご自身の状況を客観的に理解し少しずつ受け入れていくことから始めました。また、コミュニケーションシートを活用し生活・体調・精神・希死念慮・希望などの項目ごとにご自身の状況を言語化していき、家族や先生、医師などに相談しやすい基盤づくりをおこないました。ご本人の希望を始まりとして、適切な医療や福祉につながるために、まずはご家族にSOSを出すこと、ご家族の不安や心配によりそうことをめざしてコミュニケーションをとっていきました。必要に応じて行政や支援機関におつなぎする支援を実施しました。

#### 【2023年度の採択・助成実績など】

2023年1月～2024年12月：社会福祉法人 中央共同募金会

2023年4月～2023年3月：認定特定非営利活動法人カタリバ・特定非営利活動法人ETIC.

2023年8月～2023年12月：認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ

2023年9月～2024年8月：NPO法人モバイル・コミュニケーションファンド

2024年12月～2025年6月：一般財団法人たかまつ讃岐てらす財団

#### 【メディア掲載・登壇など】

2023年9月：四国新聞香川、高松経済新聞

2024年3月：かがわ kid's club 春

2024年3月：香川県子育て応援大賞 四国新聞社賞

【活動写真】

